

児童・生徒の現状・課題

- ・自分の言葉で上手に表現できない。(語彙力不足)
- ・文章表現力が低く、適切な言葉や助詞を使って表すことが難しい。
- ・間違った問題を再取得の仕方が分からない。

**学び続ける力を育むための重点目標**

○子供たち自身が自律的な学びを進めることができるよう、基礎・基本の定着を大切に学習できるようにする。

**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	78.3	80.0	82.6
②やってみたいことや挑戦したいことがある。	81.4	85.0	93.8

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	95.2	100.0	81.3
②児童の興味・関心を高める工夫をしたり、児童が取り組んだことに対して、受容・称賛・励まし等の価値付けを行ったりしている。	100.0	100.0	93.6

具体的な手だて①

週4回のモジュール学習において、算数・国語の反復学習を行い、基礎基本の定着を図る。

具体的な手だて②

単元や45分の授業の途中で振り返る場面を設定し、理解度や進捗状況を自ら確認し、修正しながら学習できるようにする。

具体的な手だて③

学習する場やツール、グループを、授業の目的に沿って自ら選択できる場面をどの教科においても設定する。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・日々の実践や成果を短時間で共有できるミニ報告会を定期的開催し、情報が流通する場を設ける。
- ・共有ドライブや校内掲示板を活用し、授業記録や教材、指導方法を共有できるようにする。

総括(7月)

全国学力学習状況調査の結果から、国語において「情報の取り扱いに関する事項」及び「読むこと」、算数においては「図形」や「測定」に関する設問の正答率が特に低い傾向が見られた。これらは、授業における基礎的・基本的な知識や技能の定着が不十分であること、児童自身に目的や目標がない状態であることに課題があることが教員から上がった。そこで、児童の学力の土台を築くために、日々の授業の中で繰り返し学び、実践する場を積極的に取り入れていくことを授業改革の芯に据えた。

総括(1月)

今年度は基礎基本の定着に重点を置き、全校で統一した方法で取り組んだ。それにより、学習課題や学習過程によって児童に選択させる場面を設定したことという教員の意識は昨年度に比べ低かった。しかし、単元や授業において振り返る場面を設定し、理解度や進捗状況を確認し、修正しながら学習したことにより、児童自身が自ら計画を立てて学習できているという自覚や様々なことに挑戦しようという意欲は高まった。今後は、教科や単元により、学習する場やツール、グループを児童自ら選択できる場面を設定していくことが必要である。